

第 71 回 幹 事 会

平成 21 年 1 月 22 日

日 本 学 術 会 議

第 7 1 回幹事会議事次第

日時 平成 2 1 年 1 月 2 2 日（木） 1 4 : 0 0 ~

議題

I 非公開審議事項

1 委員会関係

- 提案1 幹事会附置委員会委員の決定
- 提案2 機能別委員会委員の決定
- 提案3 分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定
- 提案4 課題別委員会設置要綱の一部改正及び委員の決定等

II 審議事項

1 規則関係

- 提案5 「外部へ公表する文書の取扱いについて」一部改正

2 団体の指定

- 提案6 日本学術会議協力学術研究団体の指定

3 国際会議関係

- 提案7 平成20年度代表派遣（3月分）
- 提案8 平成20年度代表派遣の変更（2月分）

4 シンポジウム等

- 提案9 公開シンポジウム「サブプライム問題と金融市場の高質化」
- 提案10 公開シンポジウム「人間とは何か：哲学する日常、日常の哲学」
- 提案11 シンポジウム「国際極年ジュニア・サミット」
- 提案12 第2回情報学シンポジウム「情報学の展望」
- 提案13 シンポジウム「今後の再生医療」
- 提案14 「キャビテーションに関するシンポジウム（第14回）」
- 提案15 公開シンポジウム「日本食肉研究会創立50周年記念シンポジウムー食肉産業・研究の現状と展望ー安全性、機能性、嗜好性」
- 提案16 公開シンポジウム「反貧困 最前線」
- 提案17 シンポジウム「健康食品の効き目とリスクー誰が何を決めるのかー」
- 提案18 シンポジウム「医学と学術活動の社会貢献を考える」

5 後援

- 提案19 国内会議

資料2

第71回幹事会（1月22日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	大垣 眞一郎
副会長	鈴村 興太郎
副会長	唐木 英明

第一部 部長	広渡 清吾	
第一部 副部長	小林 良彰	
第一部 幹事	木村 茂光	
第一部 幹事	山本 眞鳥	（途中参加）

第二部 幹事	山本 正幸
第二部 幹事	鷲谷 いづみ

第三部 部長	岩澤 康裕
第三部 副部長	後藤 俊夫
第三部 幹事	池田 駿介
第三部 幹事	海部 宣男

事務局長 竹林 義久

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 会長談話	2
3 審議付託等	3
4 委員会委員の辞任	3
第 2 各部・各委員会報告	
1 部会の開催とその議題	4
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	4
3 機能別委員会の開催とその議題	4
4 分野別委員会の開催とその議題	5
5 課題別委員会の開催とその議題	10
6 インパクトレポート	10
7 記録	13
8 サイエンスカフェの開催	13
9 総合科学技術会議報告	13
10 慶弔	14

第 1 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
12 月 26 日（金）	シンポジウム「ナノマテリアルの未来と課題」 ※開会ご挨拶	金澤会長
1 月 8 日（木）	総合科学技術会議 有識者会合	金澤会長、竹林局長
1 月 15 日（木）	総合科学技術会議 有識者会合	金澤会長、竹林局長
1 月 22 日（木）	総合科学技術会議 有識者会合	金澤会長、竹林局長

2 会長談話

日本学術会議の創立60周年を迎えての会長談話

日本学術会議は、戦後間もない昭和24年1月20日、科学が文化国家の基礎であるという確信に基づいて、科学の向上発達を図るとともに、その成果を行政、産業、国民生活に反映させることを目的として設立されました。

その後本日でちょうど60年が経ち、日本学術会議は還暦を迎えました。日本学術会議は、平成17年10月に、会員選考方法の変更、定年制の導入、部の再編成など、組織体制の大幅な改革を行いました。その後1期3年間を経てようやく本当の意味での活動の基盤ができてきたのではないかと考えています。

日本学術会議は、この60年間、わが国の科学者の内外に対する代表機関として、国内においては、政府に対する勧告・政策提言等を発出するとともに、科学の役割について国民の理解を深めるべく、公開学術講演会、シンポジウム等を開催してまいりました。また、国外に対しては、世界の主要な国際学術団体に加盟するとともに、各国で開催される国際会議等に代表を派遣するなどの活動を展開してまいりました。

このように、日本学術会議は、その創立以来様々な成果を挙げてきたわけですが、それだけに満足するのではなく、今後、学術の更なる発展のため、ますます重要な役割を果たしてゆくとの決意を持って様々な課題に取り組んでいかなければなりません。

例えば、現在日本学術会議に取り組んでいる主な課題の一つとして、各学術分野の発展の在り方、及びそれを踏まえた人類的課題に応える研究の在り方など、わが国の学術の長期展望を示す「日本の展望」の取りまとめがあります。この「日本の展望」の取りまとめは、人文・社会科学から自然科学まで、あらゆる学問分野の第一人者が集う日本学術会議の特長を十全に活かすことができる、大きな機会です。

一方で、国際的な活動に目を転ずると、最近では、黒田玲子会員が、いわば科学者の国連とも言えるICSU（国際科学会議）の副会長に選出され、また、日本生まれの4名の科学者がノーベル賞を受賞されるなど喜ばしいニュースが続いており、科学の世界で日本のプレゼンスを高める絶好の状況にあります。こうした機会を捉え、G8学術会議やアジア学術会議での活動を始めて、さらに国際的な学術の発展にも貢献していかなければなりません。

日本学術会議は、こうした数々の課題に積極的に取り組み、着実に成果を出してゆくことによって、人類社会の福祉の増進に貢献し、学術の進歩へ寄与してまいります。日本学術会議の創立60周年を迎えた本日、日本の未来を拓くため、これまでも増して積極的に活動してゆく決意をここに表明します。

国民の皆様の今まで以上の御理解、御支援をどうぞよろしくお願いいたします。

平成21年1月20日

日本学術会議会長

金澤一郎

3 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
第 20 回アジア太平洋癌学会の後援	第 20 回アジア太平洋癌学会長	第二部
抗血栓療法患者の抜歯に対する医科・歯科コンセンサスマーケティングの後援	日本有病者歯科医療学会理事長	第二部
「人間工学の活用と実践」に関する公開講座の後援	日本人間工学会会長	第三部
第 46 回日本伝熱シンポジウムの後援	日本伝熱学会会長	第三部
第 2 回日本化学連合シンポジウム「社会に貢献する学会」の後援	日本化学連合会長	第三部
King Faisal International Prize 賞受賞候補者の推薦（照会）	ファイサル国王慈善財団	各部

4 委員会委員の辞任

○薬学委員会生物系薬学分科会 野本 明男（平成 20 年 12 月 26 日付）

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第一部拡大役員会 (第2回) (12月25日)

- ①幹事会からの報告
- ②各委員会からの報告
 - 1) 機能別委員会 (科学者、科学と社会、国際)
 - 2) 日本の展望委員会
- ③分野別委員会分科会の設置および活動について
- ④「分野別説明会」の開催について
- ⑤夏季部会について
- ⑥その他

(2) 第三部拡大役員会 (第3回) (12月26日)

- ①幹事会の報告 ②夏季部会
- ③新しく発足した21期の各分野別委員会の活動方針及び問題点
- ④第三部の活動についての要望 ⑤日本工学アカデミー (E A J) との懇談会
- ⑥その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 日本の展望委員会 地球環境問題分科会 (第3回) (12月26日)

- ①分科会の検討事項について ②今後の進め方について ③その他

(2) 日本の展望委員会 理学・工学作業分科会 (第3回) (12月26日)

- ①分野別委員会での検討の進展 ②検討課題の整理について ③今後の進め方
- ④次回以降のスケジュール ⑤その他

(3) 日本の展望委員会 (第4回) (1月7日)

- ①日本の展望のとりまとめ ②各分科会からの報告
- ③今後の進め方について ④その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 科学者委員会 (第7回) (1月19日)

- ① 日本学術会議協力学術研究団体の指定について
- ② 科学者委員会における分科会の委員の決定について
- ③ 日本学術会議協力学術研究団体審査票の改定の検討について

④ その他

(2) 科学者委員会学協会の機能強化方策検討等分科会 (第2回) (1月16日)

- ①副委員長及び幹事の選定②分科会委員の追加③「学術団体のあり方に関する調査研究小委員会」の設置について④学協会へのアンケート調査について⑤海外の学協会に関する調査研究結果の報告⑥その他

(3) 国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2009 分科会 (第21期第1回) (1月9日)

- ①分科会について (委員長の互選等) ②会議概要について③プログラムについて

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 社会学委員会 日本の展望社会学分科会 (第1回) (12月26日)

- ①役員の選出について ②今後の審議の進め方について ③その他

(2) 地域研究委員会説明会および合同分科会 (1月7日)

- ①役員の選出 ②第21期の活動方針 ③その他

(3) 社会学委員会説明会および合同分科会 (1月8日)

- ①第21期社会学委員会の活動方針の審議 ②分科会役員の選出について
③第21期分科会の活動方針について

(4) 哲学委員会 哲学・倫理・宗教教育分科会 (第2回) (1月9日)

- ①H20.9.15シンポジウム「宗教的情操教育をめぐる諸問題 (学術の動向12月号特集記事)」の検討 ②第21期の活動方針について ③その他

(5) 史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会 (第2回) (1月16日)

- ①「日本の展望」分野別委員会分科会の報告書テーマについて ②その他

(6) 心理学・教育学委員会 心理学教育プログラム検討分科会

(第1回) (1月21日)

- ①役員の選出 ②学士課程教育推進に係わる活動計画
③対外報告の反応への対応 ④その他

第二部担当

(1) 農学委員会・食料科学委員会合同 農業情報システム学分科会

(第1回) (12月25日)

①委員長、副委員長、幹事の選出 ②今後の分科会の推進方向 ③その他

(2) 基礎生物学委員会・農学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会・
臨床医学委員会合同 I UMS分科会 (第1回) (12月25日)

①委員長、副委員長、幹事の選出 ②第21期の活動方針
③平成21年の代表派遣について ④委員希望者の加入について ⑤その他

(3) 薬学委員会 医療系薬学分科会 (第1回) (12月26日)

①委員長、副委員長、幹事の選出 ②今後の活動について ③その他

(4) 健康・生活科学委員会 子どもの健康分科会 (第1回) (12月26日)

①委員長、副委員長、幹事の選出 ②今後の分科会活動について ③その他

(5) 薬学委員会 生物系薬学分科会 (第1回) (12月26日)

①委員長、副委員長、幹事の選出 ②第21期の活動方針 ③その他

(6) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・
薬学委員会合同 ゲノム科学分科会 (第2回) (1月6日)

①前期からの引き継ぎ事項の確認と今期の活動について ②その他

(7) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会合同
遺伝資源分科会 (第1回) (1月6日)

①委員長、副委員長、幹事の選出 ②21期の分科会活動について ③その他

(8) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 生態科学分科会
(第1回) (1月7日)

①委員長、副委員長、幹事の選出 ②21期の分科会活動について ③その他

(9) 農学委員会・食料科学委員会合同 I U N S分科会 (第1回) (1月7日)

①委員の紹介 ②委員長、副委員長、幹事の選出
③アジア栄養学会議2015招致について
④若手育成国際ワークショップ開催について ⑤その他

(10) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 遺伝学分科会
(第2回) (1月7日)

①前期からの引き継ぎ事項の確認と今期の活動について ②その他

(11) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・地球惑星科学委員会合同
自然史・古生物学分科会 (第1回) (1月13日)

①委員長、副委員長、幹事の選出

- ②前期からの引き継ぎ事項の確認と今期の活動について
- ③「日本の展望」の応用生物学分野における分担について
- ④その他

(12) **健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会** (第2回) (1月13日)

- ①今後の分科会活動について ②その他

(13) **薬学委員会 薬学教育分科会** (第1回) (1月14日)

- ①分科会委員長、副委員長、幹事の選出 ②今後の活動について ③その他

(14) **農学委員会 林学分科会** (第1回) (1月14日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②学術の動向特集号出版の件
- ③「日本の展望」への対応 ④今期の林学分科会の活動 ⑤その他

(15) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学委員会合同 植物科学分科会**
(第1回) (1月15日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②第21期における具体的な活動方針
- ③その他

(16) **農学委員会 応用昆虫学分科会** (第1回) (1月15日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②第21期の分科会活動の方針について
- ③その他

(17) **基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同 パブリックヘルス科学分科会**
(第1回) (1月16日)

- ①分科会委員長、副委員長、幹事の選任について ②今後の活動について
- ③その他

(18) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 進化・系統学分科会**
(第1回) (1月16日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②第21期における具体的な活動方針
- ③委員の追加 ④その他

(19) **食料科学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同 トキジコロジー分科会**
(第1回) (1月19日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②第21期の活動方針
- ③委員の構成について ④その他

(20) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 海洋生物学分科会**
(第1回) (1月20日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②21期の活動方針 ③委員の追加
④その他

(21) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 細胞生物学分科会**

(第1回)(1月20日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②第21期における具体的な活動方針
③委員の追加 ④その他

(22) **農学委員会 育種学分科会** (第1回)(1月20日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②当面の活動について ③その他

(23) **農学委員会 地域総合農学分科会** (第1回)(1月22日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②今後の分科会の方針について
③提言等について ④その他

第三部担当

(1) **総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会**

(第1回)(12月26日)

- ①役員の選出 ②第20期の「記録」について ③今後の議論の進め方
④話題提供「総合資源エネルギー調査会における最近の議論」山地憲治委員
⑤その他

(2) **土木工学・建築学委員会 大規模地震災害総合対策分科会**

(第1回)(12月26日)

- ①役員の選出 ②分科会の活動内容について ③その他

(3) **地球惑星科学委員会 地球惑星科学企画分科会** (第2回)(12月26日)

- ①各分科会活動報告 ②連合の法人化と組織化改革について
③19大学代表者会議報告 ④日本の展望について
⑤連合大会への準備 ⑥その他

(4) **地球惑星科学委員会** (第2回)(12月26日)

- ①役員挨拶 ②自己紹介 ③各分科会の活動内容について
④第21期の活動について ⑤その他

(5) **地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会** (第1回)(12月26日)

- ①委員長の選出 ②第21期の課題について ③その他

- (6) 電気電子工学委員会 電気電子工学企画分科会 (第1回) (1月5日)
①役員の選出 ②分科会の役割について ③今後の活動について ④その他
- (7) 総合工学委員会 工学基盤における知の統合分科会 (第1回) (1月6日)
①第21期分科会設置の経緯と趣旨説明 ②分科会の活動の枠組み等について
③役員の選出 ④第20期の活動のまとめ ⑤第21期の活動方針について
⑥その他
- (8) 環境学委員会 自然環境保全再生分科会 (第1回) (1月7日)
①委員長、副委員長、幹事の選出 ②第21期の分科会活動について
③その他
- (9) 電気電子工学委員会 通信・電子システム分科会 (第1回) (1月7日)
①委員長、副委員長、幹事の選出 ②第21期の活動について ③その他
- (10) 土木工学・建築学委員会 景観と文化分科会 (第1回) (1月9日)
①役員の選出 ②分科会の活動内容について ③その他
- (11) 情報学委員会 情報ネットワーク社会基盤分科会 (第1回) (1月10日)
①委員長、副委員長、幹事の選出
②当分科会で議論すべき課題について (自由討論)
③第2回情報学シンポジウム (3月4日開催) について ④その他
- (12) 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会 (第1回) (1月13日)
①役員の選出 ②経過報告 ③第21期の活動方針について ④その他
- (13) 土木工学・建築学委員会
地球環境の変化に伴う水害・土砂災害への対応分科会 (第1回) (1月14日)
①役員の選出 ②今期の活動について ③その他
- (14) 地球惑星科学委員会 国際対応分科会 (第2回) (1月15日)
①第21期学術会議の組織化の説明と課題
②分科会昇格と小委員会所属替えに関する審議
③国際対応分科会の活動に関する検討 ④その他
- (15) 総合工学委員会 総合工学企画分科会 (第1回) (1月16日)
①役員の選出 ②分科会名簿確認 ③第20期活動報告
④第21期の活動について
⑤「日本の展望」に対する総合工学委員会の対応について

⑥今後の予定 ⑦その他

(16) 物理学委員会 物性物理学・一般物理学分科会 (第1回) (1月19日)

①役員の選出 ②今期の活動について ③その他

(17) 地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会 (第2回) (1月20日)

①今後の活動について ②その他

(18) 総合工学委員会 (第2回) (1月20日)

①委員会役員挨拶 ②委員会名簿確認 ③第20期活動報告

④第21期の活動について

⑤「日本の展望」に対する総合工学委員会の対応について

⑥今後の予定 ⑦その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 地球温暖化問題に関わる知見と施策に関する分析委員会 (第2回) (1月9日)

①報告書(案)について ②その他

(2) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会拡大役員会

(第3回) (1月16日)

①QAA (Quality Assurance Agency for Higher Education) に関する調査について ②その他

6 インパクトレポート

研究評価の在り方検討委員会報告

対外報告『我が国における研究評価の現状とその在り方について』

インパクト・レポート

1 提言内容

(1) 研究課題評価の在り方について

① 研究課題に応じた評価

研究の目的に応じて評価はなされるべきであり、研究課題の種類により評価基準が異なることが原則である。基礎研究の評価では、研究成果の価値がすぐに顕在化しないため、数値的な評価指標のみで表すことは困難であり、研究成果の評価はその将来価値を判断可能なピアレビューによることを原則

とすべきである。応用・開発研究の評価では、実用化までのシナリオを十分に検討した上で研究課題が計画されているかを、チェックリスト等を用いて評価することが重要である。融合研究分野や挑戦的な研究課題については、特性に即した評価基準を設定し、研究分野を熟知した評価者によってなされるべきであり、評価文化の熟成が望まれる。

② 研究評価と国民の理解

ピアレビューによる純粋な基礎研究評価における、国民に分かり難い研究成果や評価結果について、国民へのアカウンタビリティという視点からも、国民に分かりやすく説明するなどの工夫をし、理解を得ることが肝心である。

(2) 第三者評価の必要性とその在り方について

① 第三者評価とは

第三者評価とは、①評価対象者以外の第三者が、②独自の評価基準により、③独自に評価者を選び行う評価、と定義することができる。重要な研究課題や研究施策等について、第三者評価をいっそう拡充し、評価の透明性・公平性、質を向上させることが求められる。

② 実施体制

第三者評価者は、多様な研究分野に関する高度な専門知識を有する者と、評価システムや評価手法に関する専門知識を有する者から構成されることが望まれる。一方で、現役研究者の研究時間の確保に配慮するため、負担軽減の措置が必要である。評価作業の過程や評価結果を、現役研究者を含めた第三者が検証し質を担保するよう、メタ評価を制度化することも重要である。

また、公的資金による研究活動については、研究活動に対する予算の1%程度を評価やそのための調査・分析に用いることが望ましい。

③ 第三者評価として実施する評価事例

第三者評価として実施を検討すべき評価事例は、一般的には、多額な公的資金を用いている研究課題、施策、制度、政策など、その必要性や実績を厳正に検証することが求められるものである。米国のナショナル・アカデミーズのように、公的性格を強く有する第三者評価機関であれば、国の科学技術政策や研究施策・重要研究課題の評価に加えて、我が国の評価システム全体の評価（メタ評価）、さらには、人文・社会系分野等を含めた多様な研究分野の評価方法の検討なども求められる。

④ 評価に係る人材の養成

第三者評価が将来にわたって継続的に行われるためには、評価に係る人材の養成が必要である。多くの研究者は、研究評価に評価者として参加した経験を有しているが、ピアレビュー以外の専門的調査・分析の実施には不慣れ

であるため、研修などを通じて、評価者としての能力向上を図ることが望まれる。同時に、評価自体の専門知識を有する人材の養成も必要である。

2 提言年月日

平成 20 年 2 月 26 日

3 社会的インパクト

(1) 政策

総合科学技術会議評価専門調査会での評価システム改革促進方策検討の参考資料として供された。

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/hyouka/haihu71/siryo2-1.pdf>

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/hyouka/haihu71/siryo1.pdf>

総合科学技術会議は、平成 20 年 10 月 31 日に総理大臣決定された「国の研究開発評価に関する大綱的指針」の改定にあたり、専門調査会において研究課題評価の在り方等に関する審議を行っており、その過程で本報告書が参考資料として供された。評価作業の軽減、研究開発の分野や特性に応じた評価項目の設定、外部評価の積極的な実施、国民に分かりやすい情報発信など、本報告書において指摘した事項と同じ方向性を持った内容が改定後の大綱的指針に含まれている。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

- ・平成 20 年 3 月 6 日に開催された平成 19 年度 文部科学省研究開発評価シンポジウム「大学における研究のマネジメントと評価」において本報告書が引用された。

www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/hyouka/sympo/h19/006.pdf

- ・日本学術会議 科学者委員会 学術体制分科会（谷口維紹委員長）の提言「我が国の未来を創る基礎研究の支援充実を目指して」（平成 20 年 8 月 1 日）において、P1、P10、P15 に過去の対外報告を踏まえた記述があり、本報告書が活用された。

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-20-t60-3.pdf>

- ・日本学術会議 日本の展望委員会 基礎科学の長期展望分科会（海部宣男委員長）において、本報告書に関連する内容について検討されている。

<http://www.scj.go.jp/ja/info/iinkai/tenbou/kagaku/rec2.pdf>

4 メディア

- ・平成 20 年 2 月 28 日 サイエンスポータル

編集ニュース「研究活動に第三者評価の必要提言」

- ・平成20年2月29日 サイエンスポータル
レビュー「研究評価に日本学術会議の果たす役割は」
- ・平成20年3月3日『日本経済新聞』19面
- ・平成20年3月7日『科学新聞』6面

5 考察と自己点検

平成20年10月31日に改定された「国の研究開発評価に関する大綱的指針」には、評価作業の軽減、研究開発の分野や特性に応じた評価項目の設定、国民にわかりやすい情報発信など、研究課題評価の在り方に関して、本報告書と同様の記載があり、改定の方角付けに貢献できたと考える。ただ、報告書のもう一つの重要な提言である、第三者評価機関の熟成に関しては、大綱的指針には、外部評価の積極的な実施の記載はあるものの、外部評価と第三者評価が概念分けされていない。また、大綱的指針では、第三者評価機関として、総合科学技術会議、独立行政法人評価委員会、国立大学法人評価委員会、大学評価・学位授与機構等が想定されている。本報告書では、米国のナショナル・アカデミーズのような、第三者評価機関としての日本学術会議のあり方の可能性についても言及しており、その可能性のさらなる検討が必要である。今後、本報告書の提言の実効性を高めるためにも、本報告書の趣旨の周知徹底を図ることが必要である。

インパクト・レポート作成責任者

研究評価の在り方検討委員会委員長 馬越 佑吉

7 記録

○課題別委員会

文書番号				委員会等名	標題
作成日	委員会No	受付日	受付No		
SCJ第21期-201226-20840000-001				水・食料と持続可能な社会委員会	日本学術会議課題別委員会「水・食料と持続可能な社会」-中間報告(記録)-

8 サイエンスカフェの開催

なし

9 総合科学技術会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

○総合科学技術会議 基本政策推進専門調査会 分野別推進戦略総合P T

・ものづくり技術P T (第7回) 12月25日

(1)「分野別推進戦略」第3期中間フォローアップ

ものづくり技術P T「準備会合」各分野、取り纏め報告

(2) その他(報告・事務連絡等)

・ナノテクノロジー・材料P T (第9回) 12月25日

(1) 第3期科学技術基本計画における中間フォローアップに向けて

(2) ナノテクノロジー・材料タスクフォースの中間報告について

(3) その他

・分野別推進戦略総合P T 1月 9日

(1)「分野別推進戦略」の中間フォローアップについて

(2)「科学技術連携施策群」の取りまとめ方針について

(3) その他

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

・ 12月25日	*会長出席
・ 1月 8日	*会長出席
・ 1月15日	*会長出席
・ 1月22日	*会長出席予定

10 慶弔

慶事

○クラフォード賞受賞(生命科学部門)1月15日発表

平野 俊夫(ひらの としお) 第21期連携会員、大阪大学大学院医学研究科長

審 議 事 項

Ⅱ 審議事項

1	規則関係	
	提案5 「外部へ公表する文書の取扱いについて」一部改正	1
2	団体の指定	
	提案6 日本学術会議協力学術研究団体の指定	4
3	国際会議関係	
	提案7 平成20年度代表派遣（3月分）	5
	提案8 平成20年度代表派遣の変更（2月分）	7
4	シンポジウム等	
	提案9 公開シンポジウム「サブプライム問題と金融市場の高質化」	9
	提案10 公開シンポジウム「人間とは何か：哲学する日常、日常の哲学」	11
	提案11 シンポジウム「国際極年ジュニア・サミット」	13
	提案12 第2回情報学シンポジウム「情報学の展望」	14
	提案13 シンポジウム「今後の再生医療」	16
	提案14 「キャビテーションに関するシンポジウム（第14回）」	18
	提案15 公開シンポジウム「日本食肉研究会創立50周年記念シンポジウム－食肉産業・研究の現状と展望－安全性、機能性、嗜好性」	20
	提案16 公開シンポジウム「反貧困 最前線」	22
	提案17 シンポジウム「健康食品の効き目とリスク－誰が何を決めるのか－」	24
	提案18 シンポジウム「医学と学術活動の社会貢献を考える」	26
5	後援	
	提案19 国内会議	28

5	
幹事会	7 1

提 案

「外部へ公表する文書の取扱いについて」の一部改正

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 外部へ公表する文書の取扱いについて（平成20年1月24日
日本学術会議第50回幹事会決定）の一部改正
- 3 提案理由 機能別委員会、課題別委員会が作成する「記録」の取扱いにつ
いて規程する必要があるため

記

外部へ公表する文書の取扱いについて（平成２０年１月２４日日本学術会議第５０回幹事会決定）の一部を次のように改正する。
次表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後	改 正 前
(略) ２ 「記録」の内容や作成等に関する一切の責任は、各部が負うものとする。各委員会・分科会が作成する「記録」についても、関連する部が責任を負うものとする。 <u>ただし、機能別委員会及び課題別委員会が作成する「記録」については、当該委員会が責任を負うものとする。</u> (略)	(略) ２ 「記録」の内容や作成等に関する一切の責任は、各部が負うものとする。各委員会・分科会が作成する「記録」についても、関連する部が責任を負うものとする。 (略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

平成 20 年 1 月 24 日
日本学術会議第 50 回幹事会決定

日本学術会議が「科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させる」などの職務を実施するにあたっては、委員会等における審議の状況や結果などを適宜とりまとめて外部へ公表していくことが有効である。このため、「各委員会の活動状況の外部への積極的な情報提供について（平成 10 年 4 月 23 日 広報委員会）」なども参考に、外部へ公表する資料を適切に管理することを目的として、「記録」と称する文書区分を新たに設けることとし、当面、以下のとおり運用することとする。

1. 会則第 2 条に定める「意思の表出」以外の文書であって、外部に公表することを意図するもの（別途、公開のための手続きを経ているものを除く。）については、「記録」と称して適切に管理することとする。「記録」とすることができる文書の例は、次のとおりである。
 - (1) 委員会、分科会等における審議経過、審議結果
 - (2) 調査資料、文献目録、基礎データ、アンケート調査結果等それ自体に価値があり将来活用される可能性のあるもの
 - (3) 「意思の表出」を補足する資料
 - (4) 広く意見を求める等のために外部に公開することが必要な文書
 - (5) その他各部が必要と判断するもの
2. 「記録」の内容や作成等に関する一切の責任は、各部が負うものとする。各委員会・分科会が作成する「記録」についても、関連する部が責任を負うものとする。
3. 「記録」を作成した場合には、外部に公表する前に、作成の事実と作成した文書の概要等を幹事会へ報告することとする。やむを得ず公表前に報告することができなかった場合には、公表後直近の幹事会へ報告することとする。
4. 「記録」は「意思の表出」ではないことに留意し、誤解を生じるおそれのある表現や体裁を避けるとともに、文書の表紙に「この記録は、日本学術会議あるいは各部・委員会・分科会等の意思の表出ではない。掲載されたデータ等には確認を要するものが含まれる可能性がある。」という趣旨の注記を入れる。
5. 「記録」には、別途定める文書番号を付する。
6. 「記録」とした文書についてはホームページに掲載するなどにより、将来にわたって誰でも参照することができるようにする。

6	
幹事会	7 1

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

- 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

全国地方教育史学会
 日本ホワイトヘッド・プロセス学会
 日本タイ学会
 日本トラウマティックストレス学会
 極限環境微生物学会
 アジア鑄造技術史学会
 北日本漁業経済学会
 日本フランス語学会
 環境法政策学会
 北海道体育学会
 人類学関連学会協議会

- 指定することを適当と認めない。

(申請団体名)

- ・ 日本アイルランド協会

理由：日本学術会議協力学術研究団体規程第1項に掲げる要件「学術研究の向上発達を図ることを主たる目的とし、かつその目的とする分野における学術研究団体として活動してものであること」に該当しないため

- ・ 日本MOT学会

理由：独自の機関誌がないため

7	
幹事会	7 1

提 案

平成20年度代表派遣について（平成21年3月分）

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣者の選考）

- 第19条** 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。
- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	インターアカデミーカOUNシル(IAC)理事会	3月22日 ～ 3月24日	3 日	アムステルダム	金澤一郎 皇室医務主管 第二部会員	国際委員会 第2区分 ※引き続き、IAP執行委員会等にも出席予定
				オランダ		
2	インターアカデミーカOUNシル(IAC)理事会	3月22日 ～ 3月24日	3 日	アムステルダム	唐木 英明 東京大学名誉教授 第二部会員	国際委員会 特別派遣 ※引き続き、IAP執行委員会にも出席等予定
				オランダ		
3	国際問題に関するインターアカデミーパネル(IAP)執行委員会	3月24日 ～ 3月25日	2 日	アムステルダム	黒田玲子 東京大学大学院総合文化研究科教授 第三部会員	国際委員会 第2区分 ※事前に行われるIAC理事会等にも出席予定
				オランダ		
4	国際問題に関するインターアカデミーパネル(IAP)執行委員会	3月24日 ～ 3月25日	2 日	アムステルダム	土居 範久 中央大学理工学部教授 連携会員	国際委員会 特別派遣 ※事前に行われるIAC理事会等にも出席予定
				オランダ		

8	
幹事会	7 1

提 案

平成20年度代表派遣の変更について（2月実施分）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり変更すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第21条第2項及び附則第3項の規定に基づくものである。

＜参考＞「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣実施計画の変更等）

- 第21条** 関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画若しくは派遣者の変更をすべき事情が生じた場合は、その理由を付して速やかに会長に通知しなければならない。
- 2 会長は、前項の規定による通知があった場合は、理由を付して改めて幹事会の承認を得るものとする。ただし、やむを得ない事由により事前に幹事会の承認が得られない場合は、事後に追認を求めるものとする。

附 則

- 3 平成19年度国際学術交流代表派遣実施計画に係る代表派遣については、なお従前の例による。

別紙

会議名称	派遣期間（会期分）	開催地（国）	派遣者	変更内容	変更理由
地球科学国際研究計画 （IGCP）第37回地質科学国 際研究計画（IGCP本部理 事会）	2月11日～2月12日 ↓ 2月18日～2月20日	パリ（フランス）	波田重熙	派遣期間の変更	主催者の都合のため

9	
幹事会	71

提 案

公開シンポジウム「サブプライム問題と金融市場の高質化」 の開催について

- 1 提案者 経済学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。
記

1. 主 催 日本学術会議 経済学委員会、
慶應義塾大学経済・京都大学経済研究所連携グローバル COE
(その他交渉中)

3. 日 時 平成21年 2月 16日(月) 13:00 ～ 17:00

4. 場 所 日本学術会議講堂

5. 次 第

開催趣旨

サブプライム・ローン問題を機に世界の金融市場が混乱に陥っているが、本シンポジウムでは経済学の視点から問題の本質を再検討し、金融市場が効率かつ公正に機能するための市場インフラの在り方を議論し、国内外の金融市場の高質化に寄与することを目的としてシンポジウムを開催する。

プログラム案

- I 開会挨拶と問題提起：(13:00～13:20)(20分)
岩井克人(東京大学大学院経済学研究科・教授、
日本学術会議経済学委員会・委員長)

- II 基調講演 (13:20 ～ 14:00) (40分)
矢野誠(京都大学経済研究所・教授、)
「金融市場の高質化とは」

- III 研究報告 (14:00 ～ 15:20) (80分)
「サブプライム・ローン問題と金融市場の高質化に求められる市場インフラ」
報告者；吉野直行(慶應義塾大学経済学部・教授)
深尾光洋(慶應義塾大学商学部・教授)
池尾和人(慶應義塾大学経済学部・教授)
竹森俊平(慶應義塾大学経済学部・教授)
各報告者によるプレゼンテーション(4人×20分)

休憩(15:20～15:30)

- IV パネル・ディスカッション(15:30～16:50)(80分)
コーディネーター；樋口美雄(慶應義塾大学商学部・教授、
日本学術会議経済学委員会・副委員長)

パネリスト； 吉野直行・深尾光洋・池尾和人・竹森俊平
その他交渉中

V 閉会挨拶と総括：吉野直行（慶應義塾大学経済学部・教授）（16：50～17：00）

参加申込方法

E-mailもしくはFaxにて必要事項（氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス）をご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛、お申し込みください。

慶應義塾大学、慶應義塾大学経商連携グローバルCOE事務局 担当：大橋

E-mail: ayako.ohhashi@adst.keio.ac.jp Fax: 03-5427-1872

*定員（300名）となり次第、締め切りとさせていただきます。

10	
幹事会	71

提 案

公開シンポジウム

「人間とは何か：哲学する日常、日常の哲学」の開催について

- 1 提案者 心理学・教育学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 心理学・教育学委員会 心の先端研究と心理学専門教育分科会
- 2 日 時 平成21年2月21日（土）13：30～17：30
- 3 場 所 京都大学吉田泉殿（京都市左京区吉田泉殿町）
- 4 分科会の開催 同日に開催予定
- 5 次 第

開催趣旨

「人間とは何か」を学際的に考える集いです。2009年は、さまざまな節目の年です。心理学という人間の科学的理解をめざす立場から言えば、一般的には、今年はチャールズ・ダーウィンの生誕200年であり、その主著である「種の起源」の出版150年の記念の年です。しかし、今回はあえて別の視点をとってみました。今年は、フランスの哲学者シモーヌ・ベイクの生誕100年です。シモーヌ・ベイクは、日常を哲学した人です。「哲学する日常、日常の哲学」から、人間とは何かを考えたいと思います。人間を科学的に理解しようと考えれば考えるほど、余白のようなものが残るからです。「人間とは何か」という問いは、じつは3つの側面をもっています。「この世界を構成する存在として人間とはどういうものか」「この世界を認識するときに人間はどのような制約をもっているか」「この世界のなかで人間はどのようにふるまうべきか」。この3つの問いを総合的に俯瞰するには、人間の科学的な理解だけでは足りません。人間という存在が科学的に捉えきれていない余白の部分について考えてみたいと思います。

I 講 演

- 1) 鷺田清一（大阪大学学長）「哲学の立場から」
- 2) 長谷川寿一（東京大学教授、日本学術会議会員）「進化心理学の立場から」
- 3) 梶田真章（法然院住職）「浄土宗の立場から」

II 討 論

松沢哲郎（京都大学霊長類研究所所長、日本学術会議会員）
内田伸子（お茶ノ水女子大学副学長、日本学術会議会員）

山岸俊男（北海道大学教授、日本学術会議会員）

吉川左紀子（京都大学こころの未来研究センター長、日本学術会議連携会員）

松林公蔵（京都大学東南アジア研究所教授）

伊谷原一（京都大学野生動物研究センター長）

池上哲司（大谷大学文学部哲学科教授）

参加申込方法

無料、ただし参加には事前登録が必要です。

問い合わせ先：（メールのみ）

京都大学霊長類研究所、松沢哲郎、matsuzaw@pri.kyoto-u.ac.jp

1 1	
幹事会	7 1

シンポジウム「国際極年ジュニア・サミット」の開催について

1. 提案者 地球惑星科学委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議地球惑星科学委員会
国立極地研究所
- 2 後 援 未定
- 3 日 時 平成21年3月1日（日） 13:00～16:30
- 4 会 場 国立科学博物館 講堂
- 5 次 第
 - 1) 13:00～14:30 第一線の研究者からの IPY 観測報告
 - ・日本―スウェーデン合同南極内陸トラバース調査について
 - ・ペンギンの研究について
 —休憩—
 - 2) 14:50～15:40 中学生高校生よりの将来の極地活動の提案
(第3回～5回フォーラム最優秀・特別優秀賞受賞者から5名程度)
 - 3) 15:40～16:30 パネルディスカッション（司会、伊村智）
第一線研究者2名、中高生5名、指導教員2～3名、他

6 趣旨等

来る2009年3月1日には、2年間にわたる国際極年（IPY）2007-2008が一段落を迎えます。125年前の第一回の国際極年以来、回をかさねること4回、多くの科学的観測が推進され、目覚ましい成果が得られつつあります。一方、この国際極年の一つの企画として、日本学術会議地球惑星科学委員会と国立極地研究所の共同主催で始まった「中高校生南極北極オープンフォーラム」も2008年には第5回を迎え、多くの優れた提案が南極北極で実行されてきました。ここに区切りの中締めとして、国際極年における代表的な科学的観測の成果を聞き、中高生から将来の極地活動への提言を受けるジュニア・サミットを開催いたします。

1 2	
幹事会	7 1

提 案

第2回情報学シンポジウム「情報学の展望」の開催について

1. 提案者 情報学委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 情報学委員会
2. 日 時 平成21年3月4日（水）13:00-18:00
3. 場 所 日本学術会議 講堂
4. 次 第

開催趣旨

日本学術会議では、我が国の学術分野の発展のあり方及びそれを踏まえた人類的課題に応える研究のあり方など我が国の学術研究の方向・長期展望を示すために、「日本の展望委員会」が設置され、審議が開始されているところです。情報学の分野における各テーマの講演を行い、会員・連携会員に加えて一般の方々からも広く意見を交換し、将来展望について議論することを目的とします。

13:00-13:05 開会挨拶

村岡洋一（情報学委員会委員長：早稲田大学）

13:05-13:35 総論：情報学の展望

坂内正夫（情報学展望分科会：国立情報学研究所）

13:35-15:00 テーマ1：学術の礎としての情報学

- 1.1 求められる情報学とは何か：礎の学問としての情報学への期待
長尾真（国立国会図書館）
- 1.2 情報学にパラダイムシフトを起こす礎とは何か
所眞理雄（ソニーコンピュータサイエンス研究所）
- 1.3 新たな研究開発方法論の礎としての情報学
安達淳（E-サイエンス分科会：国立情報学研究所）

15:00-15:15 休憩

15:15-16:30 テーマ2：直面する諸問題解決の礎としての情報学

2.1 情報爆発の向こう見える情報化社会

喜連川優（ウェブ・メディア社会基盤分科会：東京大学）

2.2 「情報離れ」という現実を見据えた新たな発展に向けて

東倉洋一（情報関係教育問題分科会：国立情報学研究所）

2.3 情報システムに対する多様なリスクの解決に向けて

今井秀樹（セキュリティ・ディペンダビリティ分科会：

産業技術総合研究所）

16:30-16:45 休憩

16:45-18:00 テーマ3：新たな社会創造の礎として情報学

3.1 ユビキタス空間情報社会の実現による社会変革

坂村健（ユビキタス空間情報社会基盤分科会：東京大学）

3.2 新世代情報通信技術が目指す新たな社会創造

青山友紀（情報ネットワーク社会基盤分科会：慶応大学）

3.3 情報学が拓く新たな文化

原島博（東京大学）

18:10 - 19:30 懇親会

本件に関する問い合わせ先：

西尾 章治郎（情報学委員会幹事：大阪大学） nishio@ist.osaka-u.ac.jp

1 3	
幹事会	7 1

提 案

シンポジウム「今後の再生医療」の開催について

1. 提案者 基礎医学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 基礎医学委員会 再生医科学分科会
2. 共 催 日本再生医療学会
3. 日 時 平成21年3月6日（金）16：10～18：10
4. 場 所 東京国際フォーラム ホールB7（1）

5. 次 第

〔開催趣旨〕

再生医学は発生・分化研究につながる意味で重要であるだけでなく、医療という応用にも重要であり、これからの医学の中でも大きな重要性を担うことになる。さらに、一方で倫理的な問題もかかえており、各分野の方々が一同に会して、日本の再生医療の現状を把握して将来への展望を統括することは重要と考える。

〔プログラム〕

（開会の挨拶）

御子柴 克彦（第二部会員、（独）理化学研究所脳科学総合研究センター 神経発達障害研究グループグループディレクター）

浅島 誠（第二部部長、東京大学副学長）

（講演）

司 会 御子柴 克彦（第二部会員、（独）理化学研究所脳科学総合研究センター 神経発達障害研究グループグループディレクター）
浅島 誠（第二部部長、東京大学副学長）

演 者 大和 雅之（東京女子医科大学先端生命医科学研究所准教授）
「再生医療社会実現のために」

星 和人（東京大学大学院医学系研究科軟骨・骨再生医療寄付講座（富士ソフト）特任准教授）
「軟骨再生医療の適応拡大に向けて」

宮島 篤（東京大学分子細胞生物学的研究所所長、教授）
「肝幹細胞の分離と性状解析」

大隅 典子（第二部会員、東北大学大学院医学系研究科教授）
「神経幹細胞を活性化する」

（総合討論）

御子柴 克彦（第二部会員、（独）理化学研究所脳科学総合研究センター 神経発達障害研究グループグループディレクター）
浅島 誠（第二部部長、東京大学副学長）

（閉会の挨拶）

御子柴 克彦（第二部会員、（独）理化学研究所脳科学総合研究センター 神経発達障害研究グループグループディレクター）
浅島 誠（第二部部長、東京大学副学長）

1 4	
幹事会	7 1

提 案

「キャビテーションに関するシンポジウム（第14回）」の開催について

1. 提案者 機械工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議機械工学委員会
2. 共 催 日本機械学会、日本船舶海洋工学会、土木学会、農業農村工学会、ターボ機械協会（依頼中）、日本航空宇宙学会、可視化情報学会、日本流体力学会（依頼中）、日本フルードパワーシステム学会、日本マリンエンジニアリング学会、日本トライボロジー学会、日本原子力学会（依頼中）、日本混相流学会、火力原子力発電技術協会、日本ウォータージェット学会、日本生体医工学会、日本金属学会、日本材料学会、腐食防食協会、日本超音波医学会、日本ソノケミストリー学会、非線形音響研究会
3. 日 時 平成21年3月19日(木)－20日(金)
4. 場 所 東北大学「片平さくらホール」
5. 議事次第
開催趣旨：
2日間にわたりキャビテーションに関連した論文の発表と討論を行い、当該研究分野の知見を高める。論文をウェブページ上に公開する。
6. 講演プログラム(案)：

開会挨拶（案）： 井小萩利明（東北大学教授）
主催者挨拶（案）： 笠木伸英（東京大学教授，日本学術会議会員）

1. スケジュール

	3 月 19 日	
	A	B
昼食	第3回実行委員会	
13:00-13:10	開会挨拶 井小萩利明, 笠木伸英	
13:10-14:10	特別講演 加藤洋治 司会 松本洋一郎	
14:30-16:30	エロージョン(6) 座長 服部修次	流体機械(6) 座長 辻本良信
16:40-18:20	CFD(モデル)(5) 座長 能見基彦	プロペラ(5) 座長 川村隆文
18:30-	懇親会 司会 祖山 均	

	3 月 20 日	
	A	B
9:30-12:30	特別企画Ⅰ 熱力学 PD (5) 吉田義樹 司会 加藤洋治	特別企画Ⅱ バイオ OS (5) 梅村晋一郎
昼食		
14:00-16:00	気泡(群)(6) 座長高比良裕之	CFD(応用)(6) 座長 田村善昭
	閉会 次回ホスト挨拶	

2. 論文のセッション分け

セッション名	論文番号						セッション名	論文番号					
熱力学PD	5	10	20	25	27		エロージョン	8	21	22	23	35	41
バイオOS	34	36	40	43	44		気泡(群)	4	13	24	29	31	38
流体機械	1	2	14	15	33	37	CFD(応用)	6	18	19	30	32	39
プロペラ	3	7	9	11	42		CFD(モデル)	12	16	17	26	28	

3. 発表予定論文 (別紙)

1 5	
幹事会	7 1

提 案

公開シンポジウム「日本食肉研究会創立50周年記念シンポジウムー食肉産業・研究の現状と展望ー安全性、機能性、嗜好性」の開催について

1. 提案者 食料科学委員会委員長
2. 提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本食肉研究会、日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会
2. 日 時：平成21年3月28日15：10～18：05
3. 場 所：日本大学湘南キャンパス
4. 分科会：同日分科会を開催（13:00～15:00）
5. 次第

開催趣旨：日本食肉研究会創立50周年を節目として、現在の食肉科学の主要な課題の到達点と今後の発展の方向性を探り、食肉研究の発展を期するとともに、食肉研究の意義、到達点、今後の展望を広く国民に知らせる。

15：10～15：15 開会挨拶

千国 幸一（世話人）

15：15～15：30 学術会議代表挨拶

15：30～16：00 「食肉、食肉製品の安全性」

加地 祥文（厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課）

16：00～16：30 「食肉、食肉製品の機能性研究」

有原 圭三（北里大学獣医学部動物資源科学科）

16：30～17：00 「畜産副産物の機能性研究と商品化」

森松 文毅（日本ハム（株）中央研究所）

17：00～17：05 休憩

17：05～17：35 「消費者における食肉のおいしさ、好ましさ」

佐々木 啓介（（独）農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所
畜産物品質研究チーム）

17：35～18：05 「食肉の嗜好性と食行動」

松石 昌典（日本獣医生命科学大学応用生命科学部食品科学科）

1 6	
幹事会	71

提 案

公開シンポジウム 「反貧困 最前線」の開催について

- 1 提案者 社会学委員会委員長、経済学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 社会学委員会・経済学委員会合同「包摂的社会政策に関する多角的検討」分科会、社会政策関連学会協議会
- 2 日 時 平成21年3月30日（月）13：00～17：00
- 3 場 所 日本学術会議講堂
- 4 分科会の開催 同日に開催予定
- 5 次 第

開催趣旨

2000年前後の時点で、経済協力開発機構OECD諸国のなかでも、アメリカと並んで日本は、相対的貧困の比率が最も高く、所得不平等の面でも北欧諸国はもとより西欧の主要国より大きかった。近年の日本での所得不平等と貧困の広がり、労働市場の二極化に起因すると指摘される。二極化とは非正規労働者の割合の急速な上昇と、正規・非正規のあいだの賃金などの格差をさす。そこに起ったのが、アメリカのサブプライム・ローン問題に端を発する世界金融危機と大不況である。このシンポジウムでは、派遣切りやホームレス化、子どもの貧困などの問題の現局面とともに、それらと闘う運動の動態を明らかにしたい。また、サブプライム・ローンの借り手の実像に照明を当てる。

開会あいさつ：古川孝順（東洋大学教授、包摂的社会政策に関する多角的検討分科会委員長、日本学術会議連携会員）

司会：大沢真理（東京大学社会科学研究所教授、包摂的社会政策に関する多角的検討分科会副委員長、日本学術会議会員）

I 講 演（13：10～15：10）

- 1) 杉村宏（法政大学教授、貧困研究会副代表）
- 2) 豊福裕二（三重大学准教授）
- 3) 阿部彩（独立行政法人国立社会保障・人口問題研究所、国際関係部第二室長）

Ⅱ 討論など（１５：３０ ～１６：５０）

閉会あいさつ：岩田正美（日本女子大学教授、貧困研究会代表、日本学術会議連携会員）

参加申込方法

E-mailもしくはFaxにて必要事項（氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス）をご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛、お申し込みください。

遠藤公嗣・明治大学経営学部教授

E-mail: social2008@live.jp Fax: 03-3296-2350

*定員（350名）となり次第、締め切りとさせていただきます。

1 7	
幹事会	7 1

提 案

シンポジウム「健康食品の効き目とリスクー誰が何を決めるのかー」の開催について

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
基礎医学委員会委員長

2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同
パブリックヘルス科学分科会
共 催 日本衛生学会

2. 日 時 平成21年4月1日（水）13：00～16：45

3. 場 所 北里大学白金キャンパス 薬学部コンベンションホール

4. 開催趣旨：

過去20年ほどの間に世界的に急速な広がりを見せた健康食品。その効き目とリスク評価の現状、製品を購入する際の消費者の自己決定はどのようになされているか、国際的に見た制度化や規制のあり方、日本人の健康観や食文化に与える影響など、健康食品の現状を浮き彫りにし、何が求められているかを問う

5. プログラム

13:00-13:05 開会の挨拶

岸 玲子（北海道大学大学院 医学研究科予防医学講座公衆衛生学分野 教授、日本学術会議会員、日本学術会議健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会委員長）

座長 相澤好治（北里大学医学部長、日本学術会議連携会員）

津谷喜一郎（東京大学大学院薬学系研究科 特任教授）

13:05-13:30 健康食品のひろがり

津谷喜一郎（東京大学大学院薬学系研究科 特任教授）

13:30-14:05 健康食品の効き目 ー大豆イソフラボンを事例としてー

石見佳子（独立行政法人国立健康・栄養研究所 栄養疫学プログラム・生体指標プロジェクトリーダー）

14:05-14:40 健康食品のリスク ー大豆イソフラボンを事例としてー

香山不二雄（自治医科大学 地域医療学センター環境医学部門教授）

14:40-14:50 休憩

座長 津谷喜一郎（東京大学大学院薬学系研究科 特任教授）

相澤好治（北里大学医学部長、日本学術会議連携会員）

14:50-15:25 グローバル化時代の健康食品のレギュレーション

大濱宏文（日本健康食品規格協会 理事長、日本学術会議連携会員）

15:25-16:05 食の哲学地図から見た健康食品

松永澄夫（東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学 教授）

16:05-16:35 総合討論

座長 津谷喜一郎（東京大学大学院薬学系研究科 特任教授）

相澤好治（北里大学医学部長、日本学術会議連携会員）

16:35-16:45 まとめ

相澤好治（北里大学医学部長、日本学術会議連携会員、

第79回 日本衛生学会総会学会長）

1 8	
幹事会	7 1

提 案

シンポジウム「医学と学術活動の社会貢献を考える」の開催について

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
 基礎医学委員会委員長
2. 提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同
 パブリックヘルス科学分科会
共 催 日本衛生学会
 日本医学会（社会部会）

2. 日 時 平成21年4月1日（水）9：00～12：00

3. 場 所 北里大学白金キャンパス コンベンションホール

4. 開催趣旨

臨床医学実践は、最も目に見える形での社会貢献ではあるけれども、一方で、より広い学術活動の成果を社会の期待に応えて還元し、同時に将来への期待を読み取る営みが、特に社会医学関連分野で大きく動き始めている。本シンポジウムでは、社会医学学術活動に関わる社会貢献の現況を代表的な活動分野について概括的に捉え、将来における課題と展望を明らかにしたい。

5. 次 第

司 会 森本 兼囊

（日本学術会議連携会員・大阪大学大学院医学研究科教授）

岸 玲子

（日本学術会議第二部会員・パブリックヘルス科学分科会委員長・

北海道大学大学院医学研究科教授)

(1) はじめに (シンポジウムの趣旨)

森本 兼囊

(日本学術会議連携会員・大阪大学大学院医学研究科教授)

(2) 専門家教育を通じた社会貢献

小林 廉毅

(日本学術会議連携会員・東京大学大学院医学研究科教授)

(3) 「衛生学の未来への提言」 食と栄養学：健康科学の過去から未来へ

渡辺 昌 (国立健康栄養研究所 理事長)

(4) メディアと世論

小出 五郎

(日本学術会議連携会員・日本科学技術ジャーナリスト会議会長)

(5) 社会医学の目指す社会貢献

本橋 豊 (秋田大学医学部。医学部長 健康増進医学教授)

総合討論

指定発言 (1) 実証性と科学技術の社会化

山縣 然太朗 (山梨大学大学院社会医学教授)

指定発言 (2) 科学技術とその社会実装

篠崎 資志 (科学技術振興機構 社会技術研究開発センター室長)

総括コメント

(1) 日本学術会議の活動について

岸 玲子

(日本学術会議第二部会員・パブリックヘルス科学分科会委員長・

北海道大学大学院医学研究科教授)

(2) 日本医学会から 医学学術活動とその社会への還元

久道 茂 (日本医学会副会長・社会部長、東北大学名誉教授)

19	
幹事会	71

提 案

国内会議の後援

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審 議 付託先
抗血栓療法患者の抜歯に対する医科・歯科コンセンサスミーティング ①主催：日本有病者歯科医療学会 ②期間：平成 21 年 2 月 28 日 ③場所：東京歯科大学	日本有病者歯科医療学会理事長	第二部
第 9 回グリーン・サステイナブルケミストリーシンポジウム ①主催：グリーン・サステイナブルケミストリーネットワーク ②期間：平成 21 年 3 月 9～10 日 ③場所：学術総合センター	グリーン・サステイナブルケミストリーネットワーク会長	第二部 第三部
第 2 回日本化学連合シンポジウム「社会に貢献する学会」 ①主催：日本化学連合 ②期間：平成 21 年 3 月 13 日 ③場所：化学会館	日本化学連合会長	第三部
「人間工学の活用と実践」に関する公開講座 ①主催：日本人間工学会 ②期間：平成 21 年 3 月 19 日 ③場所：日本大学	日本人間工学会会長	第三部
C O C I 戦略会議、ワークショップ「化学産業と I U P A C」 ①主催：（社）日本化学会 ②期間：平成 21 年 4 月 7～9 日 ③場所：ホテル K S P、神奈川サイエンスパーク	（社）日本化学会会長	第三部
「地球とハーモニー」～講演と音楽の夕べ～ ①主催：（社）東京地学協会	（社）東京地学協会会長	第三部

②期間：平成 21 年 5 月 2 日 ③場所：日本大学		
第 46 回日本伝熱シンポジウム ①主催：日本伝熱学会 ②期間：平成 21 年 6 月 2 ～4 日 ③場所：国立京都国際会館	日本伝熱学会 会長	第三部

共同利用・共同研究拠点の申請に関するサポートレターについて

1. 現在までに依頼があった機関と、学術会議で検討を担当いただく委員会・分科会

※括弧書きは従担当の委員会

- | | |
|-------------------|---|
| ・ 京都大学霊長類研究所 | 社会学委員会
基礎生物学委員会
(応用生物学委員会)
(基礎医学委員会) |
| ・ 京都大学放射線生物研究センター | 基礎医学委員会・総合工学委員会合同
放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会
(基礎生物学委員会) |
| ・ 京都大学原子炉実験所 | 総合工学委員会 |

2. サポートレターの作成と幹事会への報告

サポートレター（機関への回答文書という形を取る）については、担当委員会・分科会で、別紙のひな形に基づいて、当該機関の実績や、拠点としての構想についての評価を盛り込んで作成いただく。

意思表示との整理問題があることに鑑み、幹事会での付議採決の手続きは採らず、報告扱い（事後報告を含む）とする。また、文書の発出者は委員長の個人名とし、印については公印ではなく私印を用いることとする。

(別紙)

平成 21 年 月 日

京都大学〇〇〇〇
〇〇長 〇〇〇〇殿

日本学術会議〇〇委員会委員長 〇〇〇〇 私印
同 ××委員会委員長 ×××× 私印

貴機関が共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことについて、

平素より、科学に関する研究に真摯なご尽力をいただき感謝申し上げます。

さて、今般、貴機関が、共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことに関して、学術会議に対してご要望書をいただきました。

顧みるに、貴機関は、日本学術会議が昭和 年に出した勧告「〇〇〇〇について」を受けて設立されたものです。このため、我々もその経緯を重く受け止めて、貴機関の今後の基本的な在り方に大きな影響を与える今回の申請について、我々の考えを明らかにすることと致しました。

(以下、各委員会・分科会で作成いただく部分)

周知の通り、貴機関は、長らく〇〇に関する研究について・・・
・・・大変重要な役割を果たしてきました。

また、今回、貴機関がおまとめになられた申請書に示されている構想は、・・・
・・・今後の〇〇研究の一層の振興に大きく寄与するものと考えます。

以上のことから、貴機関が、今般、共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことについて、賛同の意を示すものであります。